

月刊 やちまなこ

2016.5.15 発行

No. 222

5 月号

釧路湿原国立公園 塘路湖エコミュージアムセンター（あるこっと）だより



湿原散歩

今年の大型連休は雪が降ったり、風が強かったりの天気で観光客も驚いていたが、そんな天気のもとにエゾヤマザクラが平年より7日早く咲いた。丘陵地を淡いピンクに染め、ウグイスが鳴く釧路湿原にもやっと春が訪れ、夏鳥の鳴き声に促されるように湿原に新緑の広がる季節を迎えた。



コッタロ川と湿原のほとりから

191 5月のコッタロ湿原便り

コッタロ在住. 中本 アキ子(文) 中本 民三(写真)

日毎に濃くなる緑の大地に咲き始めた水仙の黄色，エゾ紫ツツジの赤紫色が阜の風にゆらゆらと吹かれる中，夏鳥の群が一斉に舞降りては飛び去ったりするこの時季ほどわくわくさせられるものと云ったらありませんね。

4月の終わり2日間は，急速に発達した低気圧の北上で何と，時ならぬ積雪で一時銀世界と化し，“春愁に追い打ちかけし吹雪哉”でしたが，すでに温もり始めていた地中からの芽吹き勢には抗しきれず，またたくまに消え失せてしまいました。それでも夜と昼の気温差は激しく乱高下を繰り返す中，晴天と雨天とが交互に訪れる変化の著しい五月のコッタロで野鳥等は巣拵えに余念がありません。彼等のうちでも美しさのきわ立つノビタキ♂と♀の姿をパチリ！“鳥交う湿原の風静粛に”と申し上げたくなる位，美声を響かせているではありませんか。

一方，度重なる自然災害もあって，営巣をやり直してもやり直しても失敗！となり，二転三転し乍らようやくと抱卵にこぎつけた丹頂等は，第1コツ&タロが4月18日に，又，第2コツ&タロの番も5月2日に各々産卵し，抱卵を開始しております。そこで“満糸雨にツルの営巣泣き笑い”。

さて，うっすらと緑に塗り替えられつつある河畔林では柳の種子を包んだ綿毛が道路と云わず川といわず盛んに舞い散る頃，今年も幻の魚と呼ばれて久しい巨大魚が悠然たる泳ぎと，♀獲得の争いをダイナミックに展開し乍ら2週間余り，観察することが出来ましたので御覧下さい。♀魚の地味色とは対照的な♂魚の目にも鮮やかな婚姻色は，一度見ると目に焼きついて離れるものではありません。“柳絮舞う母川彩成サイトウ哉”。



湿原の住人たち その182

ウグイス

コマドリ、オオルリとともに「日本三鳴鳥」といわれ、オスの鳴き声「ホーホケキョ」は有名ですが、茂みにいることが多く、声はすれども姿は見えぬのを見つけにくい鳥のひとつです。体の大きさはスズメと同じくらいで、オリーブ色がかった褐色をしています。あるこっと周辺では、例年4月下旬からさえずりが聞こえるようになり、春の訪れを感じさせてくれます。一夫多妻の婚姻形態で、巣作りから子育てまで雌が行うそうです。



シラルトロ湖・蝶の森でバードウォッチング

春の訪れとともに、シラルトロ湖・蝶の森周辺で野鳥観察会を行いました。4月23日は「春のバードウォッチング」を開催(写真)。タンチョウコミュニティ代表音成邦仁氏を講師に、双眼鏡の使い方から野鳥の生態まで、楽しくレクチャーしていただきました。春が足踏みしたような気温3度でも、ウグイスの鳴き始めからさえずりが上手になっていくさまが聞け、17種とウ類、シラスギを確認しました。また、5月7日の「湿原の野鳥観察会」では、根室市自然野鳥観光推進員の有田茂生氏を講師に開催しましたが、あいにくの雨模様で、野鳥の様子が気になりましたが、集合場所の駐車場周辺からアオジやセンダイムシクイ、エゾムシクイなどの姿や鳴き声が聞こえ、天空では雨にもマケズ？オオジシギが盛んにディスプレイ行動をしていました。蝶の森ではカラスの巣があり、親鳥が雨に濡れながら卵を抱いていて、講師も参加者も濡れてしまいましたが、繁殖のため釧路湿原に渡って来た野鳥たちの姿や行動に感動していたようで、観察会終了後参加者は、憩の家の温泉に浸かり、冷えた体を温めました。



つぼっちの塘路湖周辺今回はうろうろしていない日記 Vol.88「期待のニューフェイス！」

例年よりも早い春の訪れと共に、徐々に塘路周辺にも観光客が姿をよく見かけるようになりました。夏季の繁忙期に備え、郷土館でもお客様のいない時を見計らって、展示物の追加や補修を行っています。

今年の新資料の目玉は何といっても「エゾユキウサギ(冬毛)」です。昨年の『月刊やちまなこ』4月号に、私が初めてエゾユキウサギを見た事をご紹介し、その時に「ウサギが増えつつあるのかも・・・」と思いましたが、そんなに増えた印象もなく一年が過ぎようとしていた今年3月の事です。阿歴内で車と接触し、死んでいたエゾユキウサギをお客様が持って来てくれました。すぐにはく製業者に製作をお願いしたところ、「ウサギは皮が薄いので、綺麗に仕上がるかわからないけどやってみます。」との事。1か月後無事に完成しました。

郷土館では約700点のはく製を保管していますが、エゾユキウサギのはく製は持っておらず、今回初めてのお目見えとなります。繊細で密な純白の毛並みに、愛くるしい表情。近くでじっくりと観察したい方は、是非郷土館へお越しください！



